

徹底した現場主義で お客さまの信頼に応え、 地域金融機関としての 王道を歩み続けます。

本業特化のシンプルな経営を地道に続け、地元の中
小零細企業を支えている広島市信用組合。その堅実な
経営方針と将来の展望について、山本理事長にうか
がいました。



本業特化の経営に、さらなる磨きを。

●回復傾向にある地元経済について、どのように見えていますか？

インバウンド需要などにより、日本経済は回復に向かっていますが、円安などの影響による物価高は続いており、個人消費などの国内需要は伸び悩んでいます。これらの影響次第では、経済活動が停滞する懸念もありますが、賃上げが継続的に行われることで物価との好循環が期待されています。また、日銀が7月末に政策金利の追加引き上げを決めたのを受け、各金融機関も金利を引き上げるなど、「金利のある時代」に向けた動きが本格化しているほか、20年ぶりの発行となる新紙幣がもたらす影響など、日本経済は重要な局面を迎えています。広島では、8月にひろしまスタジアムパークが開業し、隣接するサッカースタジアムとともに街ににぎわいをもたらしています。来年の春には新しい広島駅ビルも開業するなど、ますます活気あふれる街へと進化していきます。当組合も地元のさらなる活性化に貢献していきます。

●そうした中、21期連続の増収となるなど業績が好調のようですね。

おかげさまで、当組合は令和6年度上半期決算において、経常収益は21期連続の増収となり、経常利益、当期純利益とともに過去最高を更新しました。当組合がこうした業績を残すことができたのは、投資信託や生命保険の販売には目もくれず、「預金」と「融資」の本来業務に特化したシンプルな経営を愚直に継続しているからです。このビジネスモデルは各方面で注目されており、日本金融通信社が金融界や社会の発展に広く貢献した活動を顕彰する「ニッキン賞」を今年2月に受賞したほか、数々の金融機関からの視察を受け入れてきました。これらの高評価を糧に、今後も本業特化の経営に磨きをかけていきます。

時代の流れとは真逆のスタイルを貫く。

● 本業の中でも特に重視している業務は何ですか？

融資です。地元で集めた預金を地元の中小零細企業や個人事業主、一般個人のお客さまに融資することが地域金融機関の務めであり、使命であると考えています。とりわけ中小零細企業の多くは原材料価格の高騰や人手不足、コロナ禍における企業支援策終了の影響などで、日々の資金繰りに苦慮されています。このようにお客さまが苦しいときこそリスクテイクし、手を差し伸べるのが当組合の使命です。どのような状況下においても、お客さまと正面から向き合う。その姿勢がなければ、真のパートナーとして認めていただけないと考えます。

● 融資業務において欠かせないことは何ですか？

現場を歩いて、歩いて、歩き抜くことです。デジタル化が進むなか、対面営業は時代遅れとを感じるかもしれませんが、お客さまと真の信頼関係を築くためには、お客さまのことをもっと深く知らなくてはなりません。世の中の流れとは真逆と思われる現場主義が、当組合の最大の強みであり、その要となるのが「フットワーク」と「フェイス・トゥ・フェイス」。普段からお客さまのところに足繁く通い、顔を合わせ生の声を聞くことで、小さな変化に気づき、真のニーズをつかむことができます。これからも、この当組合ならではの地道な営業スタイルを貫いていきます。

お客さまとの接点である店舗が、当組合の要。

● 店舗のリニューアルにも力を入れているようですね。

これも世の中の流れとは真逆の発想ですが、お客さまに気軽に来店していただける店舗が身近にあることが大切だと考えています。金融業界では、ネットバンキングやスマホで口座開設ができるアプリなどの普及にともない、多くの金融機関が店舗網を縮小しています。しかし、お客さまとの接点である店舗があるからこそ、いざというときに相談していただけるのです。当組合では店舗の利便性を重視しており、テナント店舗や駐車場の不便な店舗を中心にリニューアルを進めています。おかげさまで6月10日(月)には府中支店が新築移転オープンし、当日は多くのお客さまにご来店いただきました。11月18日(月)には薬研堀支店の新築移転オープンが控えるほか、来年以降も南支店、鷹の橋支店、古江支店と計画どおり進めています。今後も店舗リニューアルをお客さまとの信頼関係をより深める好機ととらえ、多くのお客さまに喜んでいただけるよう利便性向上に努めていきます。

● コンプライアンスを徹底されているようですね。

すべての業務の根幹をなすのは、コンプライアンスです。お客さまの命の次に大切なお金と、これに関わる情報を扱う金融機関にとって、コンプライアンスを軽んじることがあってはなりません。信頼を積み重ねていくことは地道な努力が必要ですが、失うのは一瞬です。どれだけ業績をあげていても、たったひとつのコンプライアンス違反で組織の屋台骨は揺らぎ、失われた信頼を取り戻すのは非常に困難です。金融機関のもつ高い公共性と社会的責任の重さを認識し、どのような場面においても正々堂々、正面突破で取り組んでいきます。



「真心」の像

● 職場目線に配慮した取り組みも重視されているそうですね。

当組合では、働き方改革が叫ばれる前から、労働時間の管理、給与の見直し、定年の延長、女性職員の活躍推進などに積極的に取り組んできました。育児休業からの復職率は90%超で、働きやすい職場環境として就職活動中の学生の皆さんからも支持を得ています。また、当組合が積極的に推進してきたバルクセル(不良債権の一括処理)は、職員が本業に専念できる環境づくりになっています。今後は、男性職員の育児休暇も奨励するほか、デジタル化・IT化による業務効率の改善などを推進し、職員がこれまで以上に気持ちよく働ける職場づくりを実現していきます。当組合が、こうした職員目線を大切にするのは、職員一人ひとりがかけがえのない財産であり、当組合の発展に欠かせない存在であるからです。そのため、人材育成にも力を入れており、店舗の移転オープンに向けたローラー活動もその一環となっています。お客さま訪問は営業の基本。現場で得られる経験に勝るものはありません。私自身、理事長に就任以降、今日までお客さま訪問を継続してきました。支店長をはじめ各職員がこれまで培ってきたノウハウを部下や後輩に伝えていくことで、現場主義の営業活動を今後も継承していきます。個々の職員が自己研鑽に励むことで、お客さまの要望に的確に応えられるようになり、信頼を得ることにもつながります。これからも当組合が地域になくてはならない存在となるために、若手職員を中心とした人材育成に全力で取り組んでいきます。



ローラー活動



ミーティング

継続は目標を育む。小さな一歩が、やがて大きな成長に。

● 今後の目標を教えてください。

当組合は、本業特化の現場主義経営を一貫して継続し、経営基盤の拡充を進めてきました。現在多くの金融機関が収益確保に苦しむ厳しい状況のなか、当組合が成長し続けているのは、面談にこだわり足を使った営業を愚直に行っているからです。足で稼いで得た情報ほど信頼できるものではありません。その着実な歩みがお客さまとの信頼をもたらし、活性化を生み出しているのです。もちろん、デジタル化をはじめ、時代の変化に応じて変えるべきものもありますが、決して変えてはならないものがあり、それが当組合の真骨頂でもある現場を重視する営業スタイルです。今年のスローガンは、「継続は目標を育む」。店舗の新築移転オープンも、毎年続けることで新たなお客さまとの取引が大幅に増えたように、目の前の目標の一つひとつクリアすることで、大きな目標にたどり着くことができます。当組合が掲げてきた預金、貸出金残高1兆円の達成がより近づいてきました。これからもお客さまとともに成長を続け、地元の発展に貢献できるよう、信頼と実績をコツコツと積み重ねていきます。



広島市信用組合のイメージキャラクター
大野豊さんのポスター(令和6年度)

〈 格付「A+」継続取得 〉

当組合は、令和6年5月に格付機関である株式会社日本格付研究所（JCR）より
長期発行体格付「A+」（シングルAプラス）、見通し「安定的」を継続取得しました。

1 格付機関

株式会社日本格付研究所（JCR）

2 格付対象

長期発行体格付

※長期発行体格付とは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。

3 格付

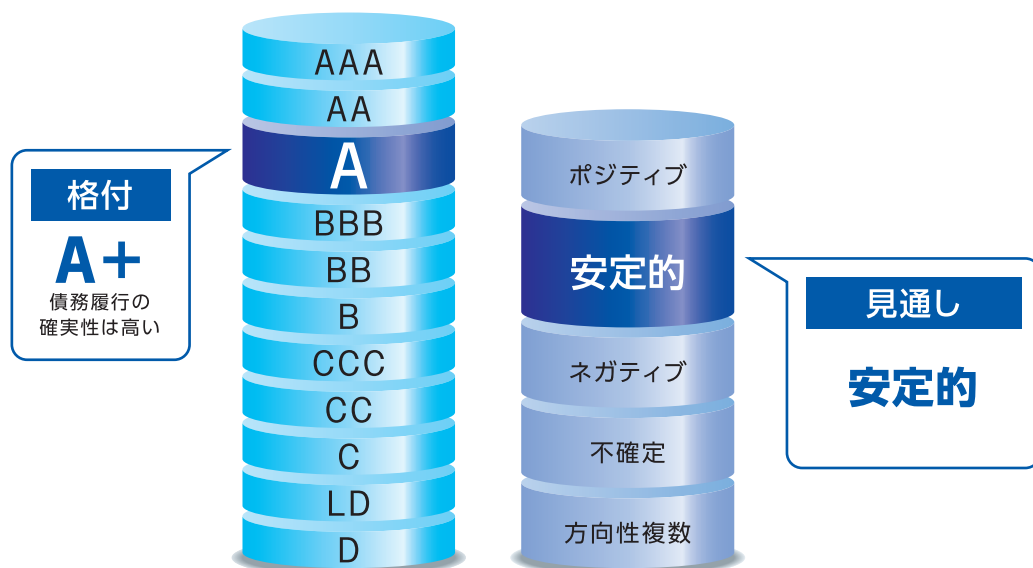
A+（シングルAプラス） 見通し「安定的」

※A（シングルA）は、株式会社日本格付研究所の11段階の格付等級の上から3番目にあたります。

※格付の見通しは、長期発行体格付が1～2年の間にどの方向に動き得るかを5つに区分して示すものです。

4 取得の目的

外部からの客観的な評価である格付を取得し、お客さまや組合員の皆さまにディスクローズすることで、透明性をもった経営を進め、財務内容の健全性をより理解していただき、信頼性を高めることを目的としています。



参考：JCR長期発行体格付の定義

AAA	債務履行の確実性が最も高い。	CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
AA	債務履行の確実性は非常に高い。	CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
A	債務履行の確実性は高い。	C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。	LD	一部の債務について約定どおりの債務履行を行っていないが、その他の債務については約定どおりの債務履行を行っているとしてJCRが判断している。
BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。	D	実質的にすべての金融債務が債務不履行に陥っているとJCRが判断している。
B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。		

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、+（プラス）もしくは-（マイナス）の符号による区分があります。